

短軀の不便

兒玉 稔

先年、京都に遊ぶの時、さる外資系ホテルを利用せり。このホテル、吾輩に一の不便あり。朝、洗顔の時、掌を水道蛇口に伸ばすに、肘まで水が傳ひ下り服の袖を濡らすことこれなり。水、何故に傳ふか。他に理由あらず。我、短軀つまり背低く、洗面臺の位置が我には高過ぐる故なり。普通の背丈の人ならば、肘は蛇口より上に位置し水傳はることなし。

この洗面臺の設計者、ホテル客の全てが並みかそれ以上の身長を有すると判断したるらし。または、國際ホテルチェーンなれば、什器備品類世界一括仕入れの定めありて、大柄なる歐米人を想定する國際規格洗面臺を國內に持ち込むを得るか。ともあれ、ここに一週間滞在したれば毎日洗面の都度この不便、不快を腹立たしく思ひたり。

三十年程も昔、歐洲出張の歸るさ、空港にて小用のためトイレに行けり。大部屋に一列に並ぶ小用便器は全ていわゆる竹筒型、筒の中空部分に向けて放出せしむるタイプにして何らの變哲無し。されど余にとりては不都合あり。放出物の飛び跳ねを防がむがための竹筒の縁、他の同種のものに比して随分と高くそれ實に發射點たる我が一物の高さを超ゆ。すなわちこれ吾輩の使用に耐へざるものなり。

この場合、我が取るべき手法は唯ひとつ。やや距離を置いて上に向けて放出し、液體に拋物線を描きて筒内に落下せしむる、これなり。但し、この場合、出始めと出終はりに自らのズボンを汚すこと明らかになれば、いかにすべきと迷ふ。

ふと見るに、天祐と言はんか、竹筒が並ぶその端、出入り口に近き邊りに小兒用の小型便器一個据ゑてあり。これ子供の用に耐ふべく十分に低し。幸ひなるかな、と安堵はすれどもすぐ、良き年齢の大和男子、小兒専用の設備に向ひて用を足すは不甲斐なしとの氣持ち生ず。

小兒用は、トイレに入り來る人、眞つ先に目にする位置にあり。假に出張要務たる交渉相手會社の擔當社員、偶然にも空港に來てこのトイレ利用するあらば、我を見つけざることなし。交渉の場にありては聲を荒ららげて持論を展開し、日本人に珍しきタフネゴシエーターと彼等に言はせしめたるこの吾輩が、小兒用便器に向かひて赤面しつつ用を足すを見らるるは頗る無念。あれこれ熟考の末、緊急事態と決意し、遂にはそを利用す。最中、トイレ出入りの人の中に知りたる顔無かりきにこそ安堵すれ。

その頃また、別の出張にて米國テキサス州に赴きしことあり。同州は大男の數多居る土地柄にして、何にても大なるを自慢するの風潮ありき。空港には、當地にては蚊すら斯く

の如く大なりと、數メートル大の蚊の模型、誇らしげに飾りたり。食堂にてステーキを注文の折、部厚にしてスリッパ底ほどの肉出現し、閉口のこともあり。

さてテキサスのホテル、例に漏れず家具調度品いづれも大なり。夜、室内にありて翌日に備へベッドに入りし直後、ドアを叩く者あり。來訪者の心當りなく、ノックの主を確認のためドア中央の覗き穴より外を見むとす。瞬間、大いに困惑せり。このホテルのドア、例に漏れずテキサス流にして大型、すなわちその覗き穴の位置、吾輩の身長にては到底届くことなき高みにあり。咄嗟に、ジャンプす。數回の試技のうちには穴に眼玉が合ふ位置にまで跳ぶを得れどもこれ一瞬のことにして誰が廊下にあるかを判ずることは難し。

止むを得ず、室内にありたる椅子をドアに寄せ、そが上に立ち、腰を屈めて覗き穴より外を見てホテルボーイの制服姿を認め、不審者にあらずと辛うじて判断せり。椅子を元の位置に戻してドアを開け、彼持參のメッセージを受取りぬ。

そのメッセージの何たるかは今、記憶せず。ただ、ドアしばし開かずして、びよこびよこと跳ぬる足音のみ廊下にて聞きし彼、何と思ひたるらむと愉快なりしことのみ、記憶す。

(令和四年五月十六日受附)